



第7章

今後の展望

- 1 今後の展望
- 2 自転車を活用したまちの将来イメージ



第7章 今後の展望

1 今後の展望

本計画では、中央区の自転車に関する現状の分析結果から課題を整理しました。そして、基本目標を「身近な移動手段である自転車を活用し、より豊かな生活を実現」とし、「安全意識」、「快適な利用環境」、「交通の利便性向上」の3点から個別目標と、目標に向けた施策を設定しました。

目標1「安全意識を高め、事故のない自転車利用を促進」に向けては、安全教育を実施するとともに、自転車の点検整備の促進に取り組んでいきます。目標2「歩行者、自転車、自動車が共に安心して快適に通行できる環境を創出」では、自転車通行空間や、駐輪場の整備を行っていきます。さらに、目標3「自転車の利用による、交通の利便性向上」では、シェアサイクルの普及や、自転車と公共交通・水上交通との結節に取り組んでいきます。

なお、目標の達成には、区はもとより、国、都、警察等の関係行政機関との連携や、区民、事業者を含めたすべての関係者の理解・協力が不可欠です。すべての関係者が目標を共有し、第2章の課題解決に向けた取組を継続的・積極的に実施していくことで、“地域の特性に合った安心して自転車と共存できるまち”へと近づけることができます。

次頁では、本区が考える“地域の特性に合った安心して自転車と共存できるまち”を地域特性に応じた自転車の活用場面や、区内全域に広がる自転車ネットワーク等のイメージを描写することにより将来像を表現しています。

歩行者、自転車、自動車が安全かつ安心・快適に通行できるまちとなるよう、一歩一歩、自転車施策に取り組んでまいります。

2 自転車を活用したまちの未来イメージ

業務中心のエリア

歩行者・自転車・自動車がそれぞれの交通ルールを理解し、お互いを尊重しながら安心して快適に通行。
業務・商業活動を支える物流機能である荷捌き駐車や、区民の身近な移動手段であるバスを考慮した自転車通行空間を確保。



歩行者空間が中心のエリア

適正に配置された駐輪場を利用し、買い物やまち散策を楽しむ。
エリア内の歩道を通過する際には、交通ルールに沿って自転車は押し歩きをするなど、歩行者へ配慮。



水上・水辺・まちがネットワーク化されているエリア

都内随一の水辺空間を感じられるよう、水辺に沿った道路を自転車で周遊することや、舟運・バス等との結節による水辺の回遊性を向上。
交通需要の増加する臨海部では、バスや鉄道とともに身近な移動手段として自転車を活用。



※描写されているイラストは自転車通行空間、駐輪場等のイメージ図です。